

## 議事概要

藤沢市政策会議を次のとおり開催した。

会議名	平成30年度第14回 政策会議
開催日	2019年(平成31年)1月17日(木) 9:00~10:53
場 所	本庁舎6階 庁議室
出席者	鈴木市長, 小野副市長, 宮治副市長, 平岩教育長 (政策会議委員) 総務部長, 企画政策部長, 財務部長, 防災安全部長, 市民自治部長, 生涯学習部長, 福祉健康部長, 保健所長, 子ども青少年部長, 環境部長, 経済部長, 計画建築部長, 都市整備部長, 道路河川部長, 下水道部長, 市民病院事務局長, 消防局長(欠席), 教育次長, 教育部長, 議会事務局長, 監査事務局長, 農業委員会事務局長, 選挙管理委員会事務局長
議 事	(1) 議題(審議事項) 1 藤沢市藤が岡二丁目地区再整備事業について(企画政策部) 2 藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業について(都市整備部) 3 平成31年度一般会計当初予算の編成状況(財務部) (2) 報告・情報提供等 ア 「あいさつ・声かけ運動」への部局長の参加について(総務部) イ 改元に伴う公用文における年の表し方等について(総務部) ウ 職員ポータルシステムの動作遅延に対する対応状況等について(総務部) エ 藤沢市審議会等の女性登用比率アップに向けての対応方針(企画政策部) オ 神奈川県による「引地川水系・相模川水系洪水浸水想定区域」の指定・公表について(防災安全部)
内 容	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事 (1) 議題(審議事項) 1 藤沢市藤が岡二丁目地区再整備事業について (藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会報告案件) (説明者: 企画政策部長) □企画政策部長から, 資料1~4に基づき概要説明が行われた。 《内容》 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI法)に基づく特定事業契約後, 平成30年12月末をもっ

<p>内 容</p>	<p>てSPCによる基本設計が完了したため、基本設計の内容を含め、これまでの取組や進捗状況について報告するもの。</p> <p>《主な意見等》</p> <p>○地元自治会・町内会への説明会なども丁寧にされていて地域の理解を得られているように感じている。民間収益施設の医療機関については、ご意見もあったようだが、総意が出来てきたということか。</p> <p>⇒医療機関に関しては、ご意見があり、事業者にも伝えたところである。小児科の部分で広く使いたいというお話があり、ご意見に沿った配置になりつつあり、結果的には調整がつきそうである。今後、基本設計をもとに地域の方への説明会を開催していく。</p> <p>○資料2の4ページ及び5ページの地下1階平面図とフロア構成図の記載内容に相違がある。整理した方がよい。</p> <p>⇒整理する。</p> <p>○資料2の1ページ配置図兼1階平面図に病児保育室が公共施設のエリアに記載がある、藤が岡保育園として実施するのか。確認である。</p> <p>⇒病児保育については、保育園の中に病児保育室等を設けて、収益施設内に入居する小児科医に協力いただき、連携して進めるものであり、公立保育園として実施するものである。</p> <p>《結果》</p> <p>了承。</p> <p>2 藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業について  (藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会報告案件)  (説明者：都市整備部長)</p> <p>□都市整備部長から、資料に基づき概要説明が行われた。</p> <p>《内容》</p> <p>藤沢駅周辺地区再整備事業のうち、「藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業」の進捗状況について報告するもの。</p> <p>《主な意見等》</p> <p>○資料2ページの2(2)で自由通路は、市が財産を所有し、維持管理を行う予定とある。事業やイベント開催に当たっては、現在はJRに使用の許可を確認しているが、今後は市で管理し使用できるのか。</p> <p>⇒今後、維持管理協定の中で議論・調整していくが、藤沢駅の南北連携強化等による街の活性化が目的であるため、ある程度は自由に市</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>が使用し、街の活性化に活用できるような方向性で調整をしていくものである。</p> <p>○観光案内所の場所も自由通路に置き換わるような図だが、今後はどうなるのか。</p> <p>⇒協議の中では、観光案内所をどうするかという議論はある。小田急やJRも商業施設の開設が想定される中で、できるだけ、市民等にわかりやすい位置になるよう、配置をしていきたい。</p> <p>○要望である。説明の中で想定される事業費が約180億ということで、本市の財政運営への影響が非常に大きい。今後、事業費総額の圧縮及び本市の負担財源については、特定財源を十分検討いただきたい。また、工事期間が8年だが、支払いについても平準化できるような検討・工夫を財務部門と一緒に取り組んでいただきたい。</p> <p>⇒事業費総額の縮減については、担当部門で考慮し努力していく。特定財源の確保については、想定される範囲の中で現在対応している。支払いの平準化については、鉄道事業者に対する負担金という性質や国庫補助事業の示達見合いの事業ということになる。市の平準化にどこまで調整ができるかわからないが国交省と十分調整しつつ、本市の財政負担への影響を減らしていきたい。</p> <p>○自由通路の拡幅整備事業については、国庫補助があるとのことだが、駅舎改良についてはどうか。</p> <p>⇒駅舎改良については、国と事業者と市が3分の1という仕組みである。</p> <p>○資料1ページの2階平面図のコンコース内に店舗はできるのか、また階層はどうか。</p> <p>⇒それぞれに改札口ができる。現時点ではJR・小田急乗換改札の上に1層整備し、改札から出た人が通れるようにすると同時に、一定程度の商業店舗が並ぶのではないかと想定している。まだ公表はされていないが、リエール藤沢などでJRが商業施設を設置する可能性はある。</p> <p>○JR改札口は、ピーク時には渋滞している。改札口の増設は事業者と協議していくのか。</p> <p>⇒JRは利用客を想定して改札口の数は調整していくものと考えている。</p> <p>○工事が平成35年度から始まり、事業費の金額自体は報告しない（資料に記載しない）ということだが、金額がいつ決定するのか、総額でいくらになるのか、平成35年度というと、村岡地区の整備</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>が重なってくる可能性がある。そのこともしっかりと検討するとともに、政策会議で議論されなければならない。現状認識としてどうか。</p> <p>⇒委員会への報告については、事業費総額約350億のうち市の負担額は約180億程度であると説明する。村岡地区の事業のみならず、全ての市の大規模プロジェクトの中で平成35年度以降、市民会館の建て替えも含め財政的に苦しいことは中期財政見通しをする中で財務部とは情報共有しているが、都市整備部だけで議論できるものではない。どこかで市の財政計画に対する認識は全庁で共有したい。藤沢駅の事業については、協定を締結し、国交省の採択が決まれば確実に進んでいくこととなる。村岡地区の整備については、平成31年度・平成32年度の概略設計の結果をもって、最終的な事業着手の判断をすることになる。</p> <p>⇒今後、本件の事業手法が決まり、それに応じた財政運営手法が決まる。予算は単年度主義のため、起債と一般財源を毎年度用意しないといけない。キャッシュは、貯金が必要。長期借入は、財務部でも中期財政計画でも行っているが、将来負担に対するシミュレーションをしておかないといけない。貯金の計画、公債費のしっかりとしたシミュレーションが必要であり、そのことにより財政運営を乗り切っていきたいと考えている。</p> <p>〈結果〉 了承。</p> <p>3 平成31年度一般会計当初予算の編成状況 (説明者：財務部長)</p> <p>□財務部長から、資料に基づき概要説明が行われた。</p> <p>〈内容〉 平成31年度一般会計当初予算の編成状況について報告するもの。</p> <p>〈主な意見等〉 ○予算編成については最終調整段階である。各部局のご協力でご概算要求時点の約105億円の財源不足が14億円まで縮小してきた。改めて感謝するが、地方財政対策による2億2,500万円の歳入増を見込んでも、財政調整基金の取り崩しは避けられない。財政運営については、苦しい綱渡りの状況であることは認識していただきたい。今年、枠配分方式を始めて3年目である。部局の事情も配慮し、ほとんどの部局で枠内に収めていただいた。事務的には負担が</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>軽減されたはずである。3年目で枠配分方式のメリットもでてきたと思っている。来年に向けての改善点を、ぜひ各部局から財政当局にも伝えていただきたい。振り返りを行うことで、職員の皆さんが、予算編成事務が楽になり、働き方改革にもつながるようにしていただきたい。</p> <p>(2) 報告・情報提供等</p> <p>ア 「あいさつ・声かけ運動」への部局長の参加について (説明者：総務部長)</p> <p>□総務部長から、資料に基づき概要説明が行われた。</p> <p>≪内容≫ 「にこやかクレド向上週間（原則毎月第1月曜日から1週間）」に実施している「あいさつ・声かけ運動」への部局長の参加を依頼するもの。</p> <p>≪主な意見等≫ ○このことについては、是非来年度も実施していただきたい。また理事者の出番も増やしていただきたい。8時20分に立って見たが、職員に声かけしても、まったく無視して通りすぎる職員の多いことに驚いた。そのような職員がどんな市民対応をしているのか懸念される。幹部職員が率先して挨拶することを徹底していただきたい。 ⇒現在は挨拶をされて、挨拶する受け身の状況だが、自ら先に挨拶する職員を増やすように意識していただきたい。</p> <p>イ 改元に伴う公用文における年の表し方等について (説明者：総務部長)</p> <p>□総務部長から、資料に基づき情報提供が行われた。</p> <p>≪内容≫ 新元号の公表及び施行に伴い、公用文における日付の表記等について全庁に周知するもの。</p> <p>≪主な意見等≫ ○年度の表記は、元号表記がルールになっているが、今までと同じ取り扱いか。 ⇒同じである。変更があれば周知する。 ○ホームページ上の表記も含めて、総務主管者会議で審議いただきたい。 ⇒総務主管者会議において調整する。</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>ウ 職員ポータルシステムの動作遅延に対する対応状況等について  (説明者：総務部長)</p> <p>□総務部長から、資料に基づき情報提供が行われた。</p> <p>≪内容≫</p> <p>2019年1月4日(金)から発生していた職員ポータルシステムの動作遅延に対する対応等の経過及び原因について報告するもの。</p> <p>≪主な意見等≫</p> <p>○現状、職員ポータルシステムは、24時間稼働の運用か。  ⇒午前1時から3時までバックアップ及びリフレッシュを行っているが、作業が終われば、使用できる。</p> <p>○電源は落としていないのか。  ⇒落としていない。  ⇒今回は法定点検のため、電源を落としたものである。</p> <p>○結局、責任の所在がわからない。資料をみるとNECフィールドディングにみえるが、どう対応したのか。4日(金)に事象が発生しているが、5日(土)と6日(日)の対応はどうだったのか。土日に対処できなかったのか。復旧まで長期間かかった理由がわからない。説明いただきたい。</p> <p>⇒瑕疵が明確であれば良いが、今回の事案は法定点検のための停電であり、サーバの電源を落とす手順も電源投入の手順についても正しく行われていた。あわせて、復電したあとについても、1月2日を除き、職員が出勤し全システムが正常に作動していたため、そのまま4日(金)を迎えた。最近のサーバには、東日本大震災のあと、クラウド環境が増えたことなどの理由から、電力供給不足が発生した場合でもシステムを止めない運用が行える電源制御機能がある。新しいシステムを構築したときに、これらの機能については使用しない設定をしていたものである。この電源制御のプログラムの方に昨年の秋口にバグが発見されており、何かのきっかけで制御機能が働きCPUが省電力モードになってしまうものであった。責任の所在については、誰かに追及するのは難しいのではないかと考えている。システムのチェック上は正しく稼働していて、多くの職員に聴取しても夜になると大丈夫という意見であったため、負荷集中のときに動作遅延がおきる事への原因の特定に時間がかかった。原因特定までの間、マイクロソフト社やVMware社にログ解析を依頼したのは、システムのかなり深いところに原因があるのでは考えていたこともあり、結果的にログの分析にも時間がかかり、職員には大変</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>なご迷惑をお掛けしたものである。</p> <p>○対応については、お疲れ様でした。災害時などの不測の事態の時の停電はどうか。</p> <p>⇒改修されたプログラムを適用したので、今後、同様の事象は起きないものと確信している。災害時にどのような業務継続ができるのか。今回、会計課への端末配置など緊急時の対応として経験できた。今回の事案を今後のBCPの取組に活かしていきたい。</p> <p>○災害のときは情報が命である。人員に余計な負荷をかけないことも大事だが、災害時の情報は重要であり、対応いただきたい。</p> <p>⇒長期に原因が掴めなかったのは、バグに辿り着かなかったためである。トリガーとしては法定点検のための停電であるが、使用できるパソコンに制限がかかったことは大きな損害であり、結果責任もある。最終的な責任の取り方等は副市長に相談していく。同じ事象は起きないが、違った形でどこにバグがあるかわからない。災害時を含めICT環境に過不足なく対応できるようにしていきたい。</p> <p>エ 藤沢市審議会等の女性登用比率アップに向けての対応方針 (説明者：企画政策部長)</p> <p>□企画政策部長から、資料に基づき情報提供が行われた。</p> <p>〈内容〉</p> <p>政策・方針決定過程への女性参画の拡大に向けた取組として、「藤沢市審議会等の女性登用比率アップに向けての対応方針」を決定したので、各課への周知徹底を依頼するもの。</p> <p>〈主な意見等〉</p> <p>○資料2の総務部では、例えば、公平委員会では女性枠1人をお願いして3分の1である。この取組は、継続してやっている。改善できそうでできていないところは強力にやるべきだが、無理なところはどうか。</p> <p>⇒実情は認識している。趣旨をご了解いただき、コントロールがきかないところも、啓発を進める。あて職のところ、そもそも女性がないところもある。抜本的な方策を考えるのは難しいが、検討していきたい。</p> <p>オ 神奈川県による「引地川水系・相模川水系洪水浸水想定区域」の指定・公表について (説明者：防災安全部長)</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>□防災安全部長から、資料1～3に基づき情報提供が行われた。</p> <p>《内容》</p> <p>2018年12月21日（金）に神奈川県が、引地川水系・相模川水系における想定しうる最大規模の降雨による洪水浸水想定区域を指定・公表したため、その内容について情報提供するもの。</p> <p>《主な意見等》</p> <p>○参考資料ということだが、生涯学習部は、村岡公民館の建て替えに影響があると認識している。公共施設の整備に対して考え方等を示す予定はあるか。</p> <p>⇒防災安全部では、そこまでは考えていないが、これを参考にしている。ただきながら、検討をしていただきたい。</p> <p>○河川の溢れるスピードとか、建物倒壊など、市民に伝える必要なものは手間をかけた方がよい。本資料の読み方について、総務主管者会議や説明会などで情報共有する場を持たないといけない。</p> <p>⇒今後、進めていく。</p> <p>○千年に1度と言う表現を、今後は0.1%という表現でアナウンスしていくのか。</p> <p>⇒県にも確認したが、1年間に千分の1で起こる確率と説明していくものである。</p> <p>○降雨の確率が0.1%だと傘を持っていく人がいない。昔、東海地震が予測できると言われたときは、緊張感があった。千分の1をどう受け止めるか。千年に1度と言ったほうがよいか、千分の1と言ったほうがよいか、意見である。行政側としては、このことにより、いつまでに何をやるのか、住民に説明するうえで、その点についても検討いただきたい。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
------------	---